

福祉オンブズ香川 夏の勉強会
「震災と障害者」 ～熊本地震に学ぶ～

日時：平成28年7月31日（日）13：30～15：30

場所：香川県リハビリセンター 福祉センター2階 AV教室

主催：福祉オンブズ香川

内容：

13:32～13:34 プロフィール紹介

○溝渕裕子（災害ボランティア）

- ・1971年 香川県三木町生まれ
- ・1994年 四国学院大学国際平和学コース卒、大学生時代は主にアジア・アフリカの差別貧困問題などを研究。
- ・1995年 阪神淡路大震災後、神戸へ行き、「被災地障害者センター」でボランティアをする。このときにほぼ初めて障害者と関わる。その後、同センターの専従スタッフとなる。数年後、被災地障害者センターをNPO法人化し、介護派遣事業を行う。
- ・その後発生した災害時には、各被災地に出向く。新潟県の中越地震、東日本大震災、熊本地震など。
- ・2009年 被災地障害者センター退職、同じく神戸にある「社会福祉法人シティライト」就職。
- ・2013年 地元香川にUターン。現在は、三木町にある「みきの家」の児童ディで週2～3日パートと、農業や化学肥料を使わない農業で、米や野菜を作って販売。

13:34～13:36 福祉オンブズマン香川 代表挨拶

- ・東北震災が治まらないまま、熊本で震度7の地震。
- ・熊本だけでなく、別府のあたりまで揺れ、四国に住んでいる私達も、どうなるか心配されたのでは。
- ・国は動かない、四国電力は大丈夫 そのあたりも溝渕さんにお話しいただきたい。
- ・被災地域の障害者がどういう生活をしているかわからないので、お話しいただく。

13:36～14:39 「震災と障害者」 ～熊本地震に学ぶ～

○講演者：溝渕裕子（みぞぶちゆうこ） 災害ボランティア

○はじめに

- ・阪神大震災で、素人ながら障害者の方の支援に関わった。
- ・香川に帰ってきて、パート東佑子共に有機農業をはじめた。
- ・地震の専門家ではない。障害者の方がどういう生活をしているかを見てきただけ。
- ・福祉の世界からも少し離れているので、最近の制度などはみなさんの方がご存じ。
- ・香川は、防災への意識が薄い、行政もそうだろうと思う。
- ・熊本の地震は、四国にも連なっている「中央構造線」が動いた。四国、香川も危ない。伊方の沖5kmほどを構造線が通っている。
- ・福島原発の例からわかるように、香川にも、海にも、早明浦ダム（80km）にも影響が出る。

○熊本地震

- ・5月の連休に1週間熊本に行った。「被災地障害者センターくまもと」を通して、ボランティア

活動。

- ・「障害者の方への専門的なサポートが出来ます」とのチラシを持って、被災地をまわった。
- ・この写真は、中学校にあった仮設のトイレ。

○「地域活動センターあゆみ」

- ・避難所として障害者を受け入れて活動。地震からずっと介護の方が対応してきて、疲労困憊の状態だということでサポートに。
- ・こんな時だからこそ、地域の方を招いてイベントを実施。
- ・女性2名、男性3名の障害者が、ディサービスの施設を避難所として利用。

- ・熊本学園大学 「NPO法人 大阪ゆめ風基金」
- ・避難所の張り紙、掲示板
- ・避難所に臨時のバス停を設置
- ・駐車場で多くの方が車中泊 余震が続いていることから、家の中では怖くて寝られないという子供、障害の方は声が出てしまうということで車中泊。
- ・アルピニスト 野口けんさん テント村 梅雨では水漏れが起きるということで閉鎖
- ・夜にミーティング 活動内容を確認
- ・大阪、滋賀、各地からきている。

○阿蘇の作業所「夢屋」

- ・もともとパン屋さん 発災後1週間後ぐらいには働き始め、パンを提供。
- ・作業所の横にはカフェも。
- ・夢屋が持っているバリアフリーのペンションに行く道が被災。
- ・家具、ガラス、トイレも吹っ飛んで、お風呂場の壁も落ち、断水中。

- ・廃校になった小学校が避難所。その横のグラウンドがゴミ置き場に。処理が追いついていない。家庭ゴミや、被災がれきが無造作に捨てられている。

○阿蘇 瑠璃

- ・温泉施設の中に、高齢者、障害者、体の不自由な方々が、部屋を借り切って避難所として生活。

○益城町

- ・屋根にブルーシート、壊れた家。
- ・どういうニーズがあったか、どこに誰が入るかを打ち合わせ。

○熊本城

- ・石垣が壊れてぐちゃぐちゃ。
- ・点字ブロックにひびや段差。視覚障害者が使うのは難しそう。

○熊本学園大学

- ・一般の人向けの避難所として開設していたが、一部をついたてで囲い、障害者の方を避難。
- ・東北の教訓から、バリアフリーの避難所とすることで、一般の方と障害者を同様に受け入れられた。

- ・東北の知識が有る教授がいて、介護科の学生さんがいてケアが可能だった。そんなこともあって、誰でも入れる避難所として開設。

○チラシ、インターネット、SNS

- ・NHKの震災特集で「被災地障害センターくまもと」のテロップが入り、各地から連絡が入ってきていた。
- ・命と暮らしに欠かせない物資、見守り介助、生活に関する相談、直接支援 など
- ・1ヶ月で述べ300名の福祉ボランティアの方が、みなさまの話を聞いている。

○障害者自らが拠点

- ・障害者の視点があることで、気づけることがあり、障害者からも安心感があり、相談しやすかった。
- ・香川でも、障害者自身も被災しているだろうが、障害者をサポートする立場にもなれる。そんなことで将来のことを考えて。

○仮設住宅

- ・車いすが使えず、入居を断念。
- ・最初から障害者のことを聞いて、作ればいいものを。

<東日本大震災>

○「被災地障害者センターみやこ」

- ・今は閉じられている。
- ・いろいろな思いを語り合っている様子の写真。
- ・あるご婦人：家は壊れなかったが、ライフラインが壊れ自宅にいられない。避難所に行っても、「家が残っているなら来るな。障害者はじゃまや」と言われ悔しかった。車いすでは、支援物資を受け取りに行くのも難しい。

○福島県

- ・除染した土をプレコンバッグに入れ野積み。
- ・浪江町 原発から7キロぐらいの町 立ち入るには許可が要る地域。
- ・立ち入れないことから、地震の時の被災した状況のまま、雑草が生えている状況。
- ・浪江町の作業所の方は、二本松に作業所を移して運営。

○伊方原発

- ・1号機は廃炉に 3号機は8月にも運転再開
- ・海が近く、山が迫っている。
- ・伊方の町は高齢化が進み、急傾斜に家が建ち、避難が出来ない状況。
- ・ボランティアの活動に追われ、写真を多くは撮れなかった。
- ・困りごとや要望を聞く。
- ・行政は手一杯で、安否確認にもほとんど来ていない状況。
- ・避難所には障害者の方はいない。段差があり、車いすに対応できるトイレがない、水分を我慢し病気に。

- ・被災してしんどい状況の方から「くるな！」と言われることもあり。
- ・避難所に障害者の方がいないことは、東北の時と変わらない。
- ・障害者を排除する、社会の差別。 障害者で生活できない状況が、神奈川のあのような事件を起こさせてしまうのでは。

○熊本での具体的な支援

- ・NPO通所施設を、職員を泊まり込ませることで避難所として運用。
- ・職員は家に帰ることも、自分の被災した家の片づけも出来ず、疲労困憊。そこで、支援することに。

○Aさん：断水などライフラインの被災から、心が落ち着かず、トイレの不安から、お漏らしをするように。

○Bさん：歩行の補助具を使う音が大きく、一般避難所で苦情。

○Cさん：ビジネスホテルで避難生活をしたが、床ずれを起こし、ホテルのお風呂では入浴も大変で、介助する奥さんの腰痛がひどくなり、5日間で自宅へ戻ってきた。余震が続いて不安で夜も眠れない。

○Dさん：精神障害 自宅の片づけを依頼された。家がとりあえず残っている人は、「しんどい」なんて言えないと思っていた。話しながら、彼女のペースで片づけることで、少し前向きな気持ちになれた。

○Eさん：心臓疾患を持つ障害児。避難所にいるが、もうすぐ避難所が閉鎖されるため、自宅の片づけをしたい。その間、子供を見て欲しい。

- ・余震が続くので、夜間だけ避難所に来る人も多かった。
- ・障害者が入れる住宅探しの依頼も。

○様々な被災地を見て

- ・被災直後、短期、中期、長期、めまぐるしく変わる被災地。
- ・被災直後は、命を救う救援活動がメイン。
- ・避難所をどうするか、障害者はいけるのか、行けないのならどうするのか。
- ・障害者は震災前から大変なのだから、だからこそ障害者が出来ることがある。障害者は震災前でも週に2回しかお風呂に入れてない。
- ・障害者は助けられるだけの存在ではない。困ったときはお互い様。
- ・障害者の視点で、ここはスロープがあった方がいいとか、最初からそうしておいた方がいい。
- ・声なき声を聞き、なにに困っているのか、想像力を働かせることが大事。
- ・型にはめるのではなく、その人にあった支援を本人と一緒に考える。専門性と素人性。

○「障害者が街に出ることが社会を変える」

- ・特別な存在ではなく、当たり前にいる人として。それが、災害時にも強い街づくりにもなる。

○「人と人とのつながりが最大の防災」

- ・お互いに「あの人大丈夫かな」と思ってくれる人がいることが最大の防災。
- ・地域の防災計画の作成に、障害者が参加する。

○自然災害の発生は防げないが、被害を減らすことは出来る。人災は防ぐことが出来る

- ・被災時には、高齢者、女性、子供、障害者に、しんどい思いがくる。

14:39～14:50 休憩

14:50～15:30 質疑・意見交換

○司会：行政へ向けての運動、障害者自身も自分たちでどうしていけばいいか勉強しながら進められればと思います。

○自立ケア かがわ：

- ・熊本学院大学へ避難していた同系列の団体から、スタッフの支援依頼があった。4月末までに派遣する準備をしていたが、出発する前日に中止。全国にボランティアの応援を求め、「大学側のケアと、全国から集まってくる介助のプロの方のケアの差が出ては困るので」と断られた。
- ・一度断られ、今でも応援要請が来ているが、準備に2週間ほどかかるので、派遣できていない状況。
- ・南海トラフの地震の時には、全国に応援を求める事態となり、サービスの差が問題になることへの備えを考える必要がある。
- ・自分たちで生き延びられるよう、スタッフと利用者の2週間分の備品を確保。水は井戸を掘り、簡易の水を綺麗にする機械を購入。

○溝渕：

- ・どれが真実かわからない状況。県外からのボランティアを受け入れない旨の情報もあり、現地の「被災地障害者センターくまもと」に相談して、入ることに。
- ・神戸の現地では、目の前の人が大変やということで、大阪の支援団体に投げた。人、もの、金の情報を、大阪でバックアップする体制となった。
- ・思いを共有できる団体がそばにある事で、混乱が少ないのでは。香川では、どこがしてくれるのか。
- ・備蓄を2週間しているのはすばらしい。
- ・介護者側も被災するし、いつも入っているヘルパーさんが来てくれるかどうかわからないし、外部から支援にきたヘルパーさんが支援しやすいように、自分のことを伝えられるような備えがあれば対応しやすい。
- ・聞くと見るのは違うので、いろいろな方に関わってもらいたい。

○女性 三木町：自分で出来ること、水や長持ちする物を涼しいところに置いている。障害者の娘のことを考えると、自宅がいいと思う。家の耐震補強をしようと思うと、けっこう大きな額となる。部屋だけの補強や寝るところだけの補強など、補助はあるものなのか。

- 女性 坂出市：家全体の耐震補強なら100万円、一部なら30万円、ベッドだけの耐震も補助がある。行政当局に聞けばいい。
- 司会：市の耐震相談に相談したらいい。
- 女性 善通寺市：防災士の講習を受け資格を取った。周りを見れば高齢の方が住んで問題となっている。地域の防災マップを作ろうと思っています。障害のある方と一緒に、どこに避難するか、どこを避難経路にするか、障害のある方と防災マップを作っている地域をご存じないか。
- 女性：玉藻園の子供たちが、西にリハビリテーションセンターの駐車場があり、溝があり、段差や傾斜があり危ないところがある。いろいろな機関（水利組合やボランティアなど）が関わり、教会が発起人となり対策が出来た。自分たちは20年ほどここで生活していたが、通路の危険性に気がついていなかった。
- 溝淵：女性、高齢者、障害者、それぞれの目線が入ることが大事。ついたてがあるだけで、みんなの目線が防げ、落ち着ける障害者、女性の着替えや授乳にもついたては必要だし。
- 女性 障害者：仮設住宅の入り口の段差は、高齢者や妊婦の人にとっても大変で、2年とか住む場所になるので、段差のない仮設住宅にしてもらうよう香川県に要請しておかなければと思った。
- 溝淵：阪神では急に作る必要から、砂利の整地の上に建て、孤独死も。その教訓があったが東日本も十分ではない。地場の木材で作るとか、暮らしやすい仮設住宅も、当たり前の要望として普段からあげていくのがいいのかな。
- 司会：仮設住宅 阪神、東北、熊本と3回経験していて、障害者に優しい仮設住宅が出来ていない。なぜなのか、質問していかないといけない。各自治体も防災訓練をすることが義務づけられているが、防災訓練に障害者も出て行くことで、うちの自治体にも障害者がいることを知ってもらえる。うちの自治体の防災訓練に参加したが、消火訓練や単価の訓練だけでは、なにの訓練にもならない。訓練の内容も考えていけるようはなしていかないといけない。
- 女性 三木町：子供の車いすを押しての避難訓練をしていて、「おまえだけ、生きようと思うとるんじゃ」と訓練に参加していない人からなじられた。
- 溝淵：私達と同じ暮らしをしていることをアピール。神奈川の事件でも、「障害者はいない方がいい」との書き込みが蔓延している。地震より人の気持ちが心配。
- 高松ボランティア協会 司会：教育、障害者とふれる機会がないと、なかなかわからない。協会では車いすを経験してもらい、どういうところは通りにくいのか、経験を積んでいく必要がある。
- 女性 施設で生活：私、この会に出る際に「そんなの行っても助けんよ」と施設の職員に言われた。まだ、そんなことを言うのかいと思いながら、笑いながら出てきたけれど。

○司会：いっぱいいっぱい仕事をして給料が安い。給料が高ければ、研修とか意識の向上をしていけば無くなると思うが。その個人の人間性の問題とは思うが。

○溝渕：このような会に参加させていただき、意見交換をしたい。ちゃんとした講師をよんでの勉強会とか出来たらいいなあと思います。

—以上—

福祉オンブズ香川 夏の勉強会

「震災と障害者」

～熊本地震に学ぶ～

今回の夏の勉強会では、4月に起こった熊本地震を受け、実際に現地に行かれた溝渕裕子様をお招きして講演していただきます。

溝渕様は、「被災地障害者センターくまもと」を通して熊本へ一週間ほどボランティアに行かれたそうです。避難所などを回り、障害のある方がおられるか、何か困り事はないか、聞き取りしていったそうです。現地に行かなければ把握できない状況、知るべきことや考えるべき課題は多いようです。

現地に行ってできること、香川でできること、障害者だからできること、健常者だからできることなど、溝渕様のお話は今回の震災や今後発生すると想定される南海地震の際の障害者の避難方法・避難所等を考えるきっかけになるはずです！

講師：溝渕裕子様（災害ボランティア）

日時：7月31日(日)午後1時30分～午後3時30分

場所：香川県リハビリテーションセンター

福祉センター 2階 AV会議室

高松市田村町1114番地 ☎ 087-867-7686

主催：福祉オンブズ香川

連絡先：福祉オンブズ香川事務局 ☎ 087-866-0631

✉ augestsky@go5.enjoy.ne.jp

スケジュール

13:00 受付開始

13:30 講演

14:15 休憩

14:30 話し合い

15:30 散会

